

「GFPグローバル産地づくり推進事業」における グローバル産地計画策定について

2020年2月28日

大塚製茶株式会社

436-0009

静岡県掛川市大野1638

目次

大塚製茶株式会社

- 達成したい目標（ゴール） 3
- 輸出における課題 4-6
- 商流（現状と目標） 7
- グローバル産地計画の実施スケジュール 8
- グローバル産地計画の実施体制 9

達成したい目標（ゴール）

大塚製茶株式会社

- EU残留農薬基準を満たした静岡県茶葉の輸出
- 輸出量、輸出額、輸出先の拡大

目標

- 輸出額5184万円
- 静岡県産茶葉の輸出量：3000kg
- 輸出先（23か国）
- 年間新規獲得件数：5件

現状

- 輸出額2500万円
- 静岡県産茶葉の輸出量：500kg
- 輸出先（20か国）

時間

輸出における課題と解決策

大塚製茶株式会社

【現在の課題】

- ・ 茶における日本と海外（EU、米国、台湾など）の残留農薬基準の違い
- ・ 県内における輸出対応茶葉が少なく、他県産の物に頼っている
- ・ 輸出商談会において、食の安全基準の認証（HACCP、ISO22000、FSSC22000など）の取得が必須条件になってきている

厳しい

農薬基準

少ない

県産茶葉

増えない

商談機会

輸出における課題と解決策

大塚製茶株式会社

【生産面での解決策】

- ・ 残留農薬基準を満たした県内産茶葉を増やすため、協働事業者「株式会社和香園」「お茶のツカサ園」「合同会社山宝園」三社間での情報共有の下、農薬基準を満たす防除計画を確立し、茶葉生産を開始



輸出における課題と解決策

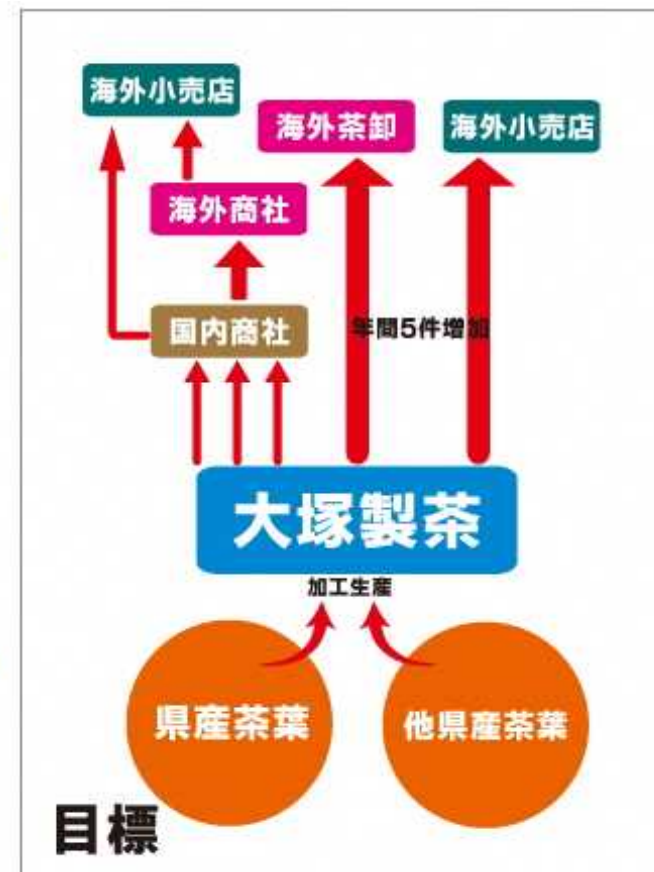
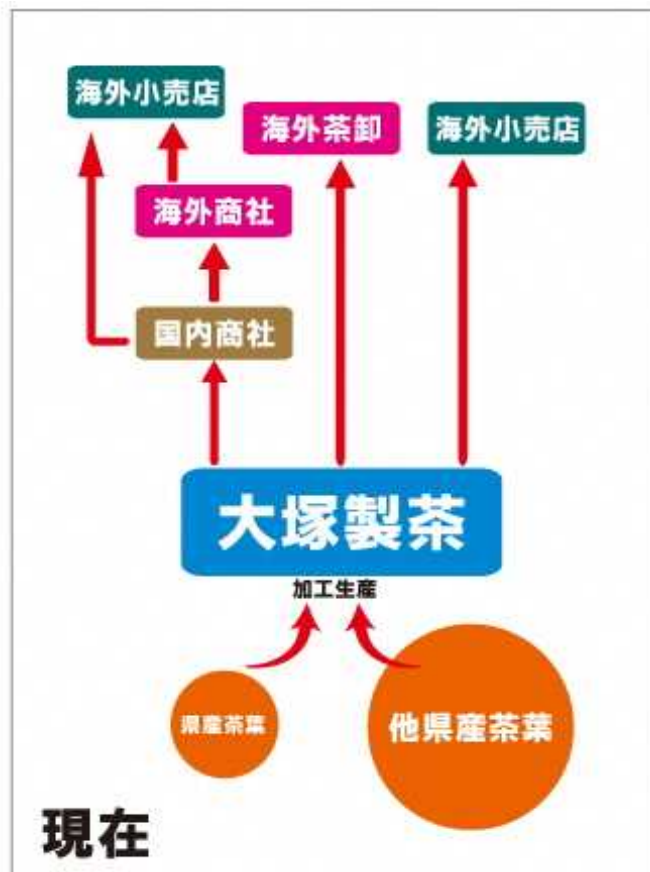
大塚製茶株式会社

【流通・販売面での解決策】

- 原料加工工場においてはISO22000認証を取得（2020年予定）
（協働事業者株式会社和香園はFSSC22000取得済）
- 海外バイヤーとのスムーズな商談機会を獲得
- バイヤーとの商談機会に成約確立を上げるために魅力的な商品の開発に取り組む（協働事業者による残留農薬基準を満たした生産茶葉使用）
- ISO22000認証取得後のマーケティングの一環として海外展示会に出展
同時に海外新規取引先拡大に取り組む
- 開発した新商品→間接取引 ▪ 生産した茶葉→直接取引（卸）

商流（現状と目標）

大塚製茶株式会社



大塚製茶株式会社

[illegible]

グローバル産地計画の実施体制

大塚製茶株式会社

